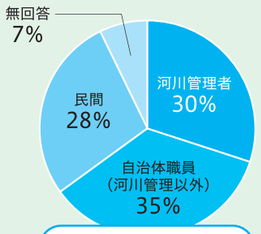
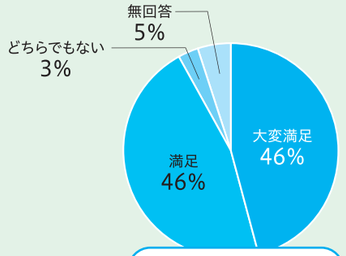
学んでつながって、うごきはじめた水辺の未来。

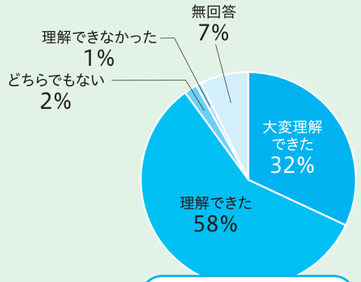
多様な参加者から満足と期待の声



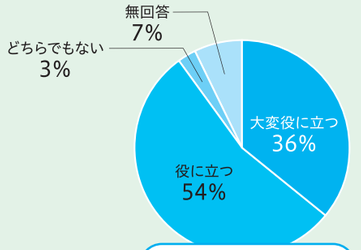
参加者プロフィール



満足度



理解度



役立ち度

参加者からのご意見

- 民間との関わり方を学べた（愛知県・自治体職員）
- 新たな視点から まちづくりを 考えることができた（自治体職員）
- ミズベリングの進め方を 学ぶことができた（京都府・自治体職員）
- ありゆる立場の 体験談が聞けて 発想の転換ができそう（滋賀県・自治体職員）
- ワークショップで意見を たくさん聞けてよかった（滋賀県・自治体職員）
- 海辺の利活用についても アドバイスがほしい（鳥取県・自治体職員）
- 制度、実践者の話を バランスよく聞けた（大阪府・自治体職員）
- 地元の川に人を呼ぼうと 熱い思いが伝わった（河川管理者）
- 行政をどう 巻き込めばいいか考えたい（福井県・河川管理者）
- 民間事業者をはじめ もっと多様な主体に 参加してほしい（兵庫県・河川管理者）
- イベントやまちづくりの こだわっている点を 聞く事ができた（京都府・河川管理者）
- 今回生まれたつながりを 大切にしたい（大阪府・民間）
- 自分の視野を 広げることができた（京都府・民間）
- ソフト活用の重要性が 認識できた（民間）
- これからもこういう 情報交換の場を 続けてほしい（民間）
- 実践例を知ることができ 有意義だった（民間）
- 行政関係者の 河川活用に対する 関心の高まりを感じた（民間）
- ミズベリングの知識は なかったので勉強になった（兵庫県・民間）

ミズベリングに関するお問合せ kkr-kasenmizube@mlit.go.jp

「ミズベスクール」最新情報は公式facebookページをチェック！
https://www.facebook.com/mizubeschool/

「いいね！」を押して参加しよう！

主催：国土交通省 近畿地方整備局

ミズベスクール2

MIZUBE SCHOOL 2

2019. 2.18

大阪合同庁舎 第1号館 第1別館 大会議室

REPORT

「学ぶ」「つながる」「うごきだす」河川空間利用

水辺に対する関心を高め、活用し、住みやすく魅力的なまちをつくっていこう・・・
そんな想いから始まった「ミズベリング」も早5年目。全国各地で着実に成果を積み重ねてきています。
そのアクションをさらに広げ、まちの未来にワクワクする水辺の姿を見出そうと、
近畿でも2回目のミズベスクール開催となりました。
遠くは北海道や島根県から77名の市民・企業・行政、そしてプロジェクト実践者の皆さまが一堂に集結。
共にノウハウや課題を学び、新たなアイデアと可能性で、さあ動き出そう。

ミズベスクール2
MIZUBE SCHOOL 2

開/会/ 10:00～

開会挨拶

国土交通省 近畿地方整備局
広域水管理官
由井 伸直氏

主旨説明
プログラム説明

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川環境課 調査係長
井上 卓氏

REPORT

制/度/解/説/ 10:10～

発表資料は
近畿地方整備局ホームページで
閲覧できます

https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/mizuberingp.html

制度解説 ❶ ［ミズベリング・プロジェクトのあらまし］

(株)スコップ 代表取締役社長 ソーシャルコンテンツプロデューサー **山名 清隆**氏

世界から注目される街のシンボルとしての水辺を。

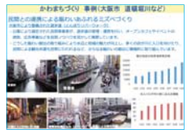
ミズベリング・プロジェクトもかれこれ5年。そもそも御法度だった河川空間で何かをするということ。そうした固定観念を外し、やってはいけないこと、できないことの常識を覆していこうという5年間でした。世界の名だたる都市では、水辺と街並みが一体となった美しく品格のある空間が形成されています。シンガポールも、ニューヨークも、パリも。日本でもかつて水辺は地域を代表する風景でしたが、経済の発展とともに美しい姿は失われ、人々の暮らしから遠ざかっていったんです。
そして今日、防災対策と共に、質の高い水辺を取り戻そうと。ただの整備ではなく、美しさや品格、魅力をもった、まちのシンボルとしての水辺を。その3大コンセプトが「賢い空間利用」「積極的な民間投資」「市民や企業を巻き込むソーシャルデザイン」です。人や情報を引き付ける可能性を秘めた水辺に、観光資源としての活用も見据えた未来空間を創出し、ソーシャルデザインとしての価値を創造していく。そのために、官も民も表舞台で自分のできることを考えていく場になればと思います。

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/aramasi.pdf

制度解説 ❷ ［かわまちづくり支援制度］

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長 **中嶌 遼**氏

ソフトとハードの両面で川と街と人をつなぐ。



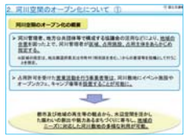
ミズベリングに密接した制度として、国土交通省のなかにも「かわまちづくり支援制度」というものがあります。“かわとまちをつなぐ”“水辺の新しい空間活用”“賑わい”など、ミズベリングと共通するキーワードもたくさんあり、イベント広場やオープンカフェの設置など、河川敷地の多様な利用を支援する「ソフト対策」と、治水や河川利用上の安全・安心に関わる水辺整備を支援する「ハード支援」の両面からなる制度。水源地に近い場所での親水空間支援をはじめ、河口でのカフェや公園計画など、幅広い地域でかわまちづくりを推進し、近畿では平成29年度末時点で17箇所のかわまちづくり計画が登録されています。事例としては、河川整備により体験イベントやバーベキューなどの賑わいを創出した守山市の野洲川、規制緩和で川床を復活させた箕面市の箕面川、そして民間との連携で遊歩道を整備した大阪市の道頓堀川などの成功例があります。水辺の価値創造はもちろん、地域そのものの魅力向上にも資する制度として、ご活用いただければと考えています。

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/kawamatidukuri.pdf

制度解説 ❸ ［占用許可準則と都市・地域再生等利用区域］

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 水政課 行政第一係長 **澤岡 俊尚**氏

河川空間をオープンにして川を街の魅力のひとつに。



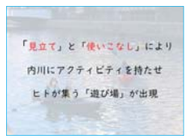
水辺の賑わいづくりをやっていこうという前提で、河川の「占用許可準則」についても触れておきたいと思います。そもそも河川を使用するには許可が必要なわけですが、これはダムとか橋の設置についても同じことです。生活や経済を考えるうえで公共的な目的のものということになりますが、時代とともに賑わいづくりに関する規制緩和も必要だなということになってきました。その一番のターニングポイントが平成23年の準則の改正で、営業活動を含めた“河川空間のオープン化”がなされてきました。
ポイントは“地域の合意”です。あくまでも川を街のひとつとして地域のために活かしていくという合意がなされた上で許可されるということです。これによって、河川敷地にオープンカフェやキャンプ場などの設置が可能になり、また川沿いにある既存のカフェなどでも河川敷空間を店舗の一部として使用する、日よけを出すことなどが認められるようになりました。“都市地域再生の河川敷”というキーワードのもと、どんな施設を誰がどう運営していくのか、みんなで考えていくという制度になっています。

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/kyokazyunnsoku.pdf

制度解説 ❹ ［都市再生推進法人の制度］

和歌山市役所 市長公室 政策調整部 政策調整課 官民連携グループ 企画員 **竹家 正剛**氏

行政のプライベートマインドと民間のパブリックマインド。



“このピンチはチャンスかもしれない”と考えました。和歌山市は都市のスプロール化によって人口も減少し、まちなかのコンテンツも失われるようになっていました。そこで始まったのが、街への熱い思いをもった人たちによる「リノベーションまちづくり」。実在する遊休不動産や公共空間を再生させるための事業計画を立案し、具体化していく。スクールを通じてまちづくり会社の設立や担い手の育成を進めていくということなどです。実際この5年間で「クラフト×暮らふとビールフェス」や「ポポロハスマーケット」などの賑わいを創出したり、川遊びの場をつくり出したり、この街の変化の兆しを実感しています。
こうした街の再生には“プライベートマインドをもつ行政”と“パブリックマインドをもつ民間事業者”の連携が重要だと言われています。民間は得た利益で街を再構築するとか事業を持続させていくこと、行政はスピード感やフレキシビリティを持って対応していくなどといったことです。そうした中で、民間事業者にも公的な立ち位置を付与する仕組みが必要だろうと考えられたのが「都市再生推進法人」の制度。公共空間をオープンに活用できる、規制緩和の制度にのることができるなどのメリットはもちろん、自分が“まちづくりの当事者”であるという意識を持つことが、まちの再生により有効に活かされていくのだと思います。

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/tosisaiseisuisinhouzin.pdf

REPORT

事/例/紹/介/ 11:25～

MIZBERING Nakagawa

それぞれの水辺に、それぞれの未来。

YODOGAWA NIGIWAI PROJECT

一言で“水辺の活用”といっても、
その内容は地域や目的によってさまざま。
いつも身近なところにあって気づかなかった
地元の魅力を再発見したり、
ごく日常の場所である水辺を
地域そのもののセールスポイントに
昇華させたり・・・。
茨城、京都、東京、
それぞれタイプの違う水辺活用の取組み事例から、
水辺とまちを輝かせるヒントが見えてきます。

MIZBERING Komae

1 MIZBERING Nakagawa

茨城県

かつらかわまちづくり
「町の魅力を、町の人から伝えよう！」

（株）桂ふるさと振興センター（道の駅かつら）店長
谷津 安男氏

地域の魅力を活かした水辺空間の活用

平成25年度に官民の団体が集まって、かわらまちづくり推進協議会を組織しました。食や自然を活かした体験型の観光を軸として、かつら地区の活性化をしようというのが狙いでした。そこでまず行ったのが、安全で利用しやすい水辺空間の整備です。管理用道路や遊歩道の整備により、気軽に水辺で遊んだり散歩したりできる環境が整うとともに、山や川、道の駅など地域内での回遊性も高まりました。今では道の駅やキャンプ、釣りなど年間50万人もの方がここを訪れています。
環境が整ったところで、もっとたくさんの人に来てもらおう、知ってもらおうということで、イベントを企画することになりました。ポイントは、地域の魅力（もの・こと・ひと）の発掘。地元の特産を使った郷土料理、山に詳しいガイド、川の生き物を題材にした自然観察、鮭の稚魚放流、竹細工や河原の石を使ったストーンペインティング・・・季節に合わせて組み合わせを考えたイベントは大好評。どれも派手なものではありませんが、その時期にしか体験できないことや、田舎にしかないものが求められていることがわかりました。ちょっとしたきっかけづくりと、地域づくりを続けていきたいと考えています。

質疑応答

Q. 自分のまちをよくしようと思ったきっかけは？

A. 道の駅の店長になったことで、まわりの山や川のよさもいっしょに伝えたいと思うようになりました。

「田舎でしかできないことを、少しだけ特別な体験に！」

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/mizubeschool2_jirei01.pdf

2 YODOGAWA NIGIWAI PROJECT

京都府

天ヶ瀬ダム見学ツアー
「京都の魅力はひとつじゃないんです！」

お茶の京都DMO（一般社団法人 京都山城地域振興社）
管理部次長
川瀬 章治氏

天ヶ瀬ダムを活用した集客について

「京都」というブランドは国内外に浸透していますが、やはりその大半は京都市内のイメージです。われわれは「もうひとつの京都」ということで、海や森、お茶など独自の財産を活用して効果的な集客を図り、多様な関係者を巻き込みながら魅力的な観光地づくりを進めようと活動しております。

天ヶ瀬ダムは、最寄り駅から3km世界遺産の平等院からも2.6kmと、市街地から徒歩で行ける珍しい立地条件にあることに着目し、観光資源化の取組みを始めました。
現在行っている見学は、ダムの概要や歴史の説明に始まり、堤頂や堤体壁面にある管理用通路からのスケール感あふれる眺望などが好評を博しています。
われわれが取組みを始める前にも点検放流の見学など、官民共同による観光資源化に向けたイベントが年1・2回行われていました。こうしたイベントの実施者に協力をいただき、昨年5月には、ニーズ確認、見学内容の評価・意見収集を目的にモニターツアーとして参加費500円で実証実験を行いました。既存の見学を活用することで関係者のイメージの共有や各種調整の省力化が計れ、実施結果は、160人定員の2.4倍の申込がありニーズが高いことが確認できました。また、アンケート結果から見学内容・時間についても高評価であり実施内容に大きな変更は不要であることが確認できました。参加者の声を反映し、何点かの改善を行い、収益を上げる実証実験として、昨年8月には天ヶ瀬ダムと高山ダムを巡るバスツアーを6,800円で実施し、一定の参加者が集まると共に参加者より高評価をいただいたところです。今年の取組でダム見学は収益が上がる商品となることが確認できました。今後も実施結果を検証し、収益を上げることにより持続可能な取込みとなるよう関係者で協議を行っていくこととしております。

「持続していくために、実証実験・効果測定を！」

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/mizbeschool2_jirei02.pdf

3 MIZBERING Komae

東京都

タマリバ
「住んでる街をよくしたい、そこに川がありました！」

comaecolor代表
篠塚 雄一郎氏

多摩川でDIYスタイルの水辺まちづくり

狛江市っていうのは神奈川との県境にある全国で二番目に小さな市なんですけど、多摩川沿いにあって以前はバーベキューなどでけっこう賑わっていたんです。それが騒音やゴミマナーで規制がかかってしまい、キレイにはなったものの人がぜんぜんいなくなった。すごくいい環境があるのにもったいないということで、建築系や飲食のオーナー、音楽業界、デザイナーとかが集まってプロジェクトを立ち上げたわけです。
DIYで会場を作って、ライブや映画上映、SUPなど“河川敷を遊びたおす”ことをやりました。2016年から始めて、参加者は3,000人、7,000人、12,000人と順調に増えていますし、なんとか黒字も維持しています。もちろん警察や消防にはちゃんと手続きを踏んで。収入はクラウドファンディングと地元協賛、テナント料、飲食売上、そして寄付です。地元の会社やお店の方に思いを伝えて協賛していただくことで、この街に住んで新しい人と古くからの人とのつながりができたことが、お金と違う意味があるんだと思っています。それから、メディアに取り上げてもらったり、近隣のマンションが“タマリバのあるまち”として売り出されているというのは嬉しかったですね。自分たちが住んでいる街をよくしたい、面白くしたいという中のひとつとして“川を”っていうような目線なんです。

質疑応答

Q. タマリバの活動について市から後援以外に協力は？

A. 具体的にはありませんが理解は得られていると思います。今後はさらに連携を考えていきたいです。

「古くから住んでいる人と新しい人のつながりも財産に！」

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/mizbeschool2_jirei03.pdf

REPORT

分/科/会/

1回目13:45～
2回目14:25～

制度解説、事例紹介に続いて分科会。参加者は6つのテーブルに分かれ、登壇者を中心に少人数グループでじっくりと意見交換をします。立場の違う人たちが同じ机上で意見を交わし合い、ふくらませ、共有し、可能性を模索していく。まさにミズベリングのめざすカタチが、そこにありました。

テーブル1 ［講師：山名清隆氏］
ミズベリング・プロジェクトと水辺の創造力について

イベントして終わりじゃなくて、大切なのは“人を呼びたい”という気持ち

テーブル2 ［講師：岩本唯史氏］
水辺空間活用の取組における場づくりについて

テーブル3 ［講師：竹家正剛氏］
都市再生推進法人活用のコツ

何かをやってみて反応をみれば、ニーズも取れるし改善点もわかる

テーブル4 ［講師：谷津安男氏・金子悠哉氏］
地域の魅力を活かした水辺空間の活用における関係者の協力について

テーブル5 ［講師：川瀬章治氏・菊池弘氏］
インフラを観光資源としてとらえた集客について

実験的に始めてみて体験してもらって次第に納得を得ていくように仕向ける

テーブル6 ［講師：篠塚雄一郎氏］
都市における河川空間の魅力と持続的なプロジェクト経営について

まちづくり全体の中で河川のことも組み込める機会を積極的につくるべき

活動を継続していくことの、それぞれの立場のメリットをぶつけ合うことが大切

河川は使えない場、許可できない場という思い込みをまず変えなければ

REPORT

ミ/ズ/ベ/リ/ン/グ/ワ/ー/ル/ド/カ/フ/ェ/

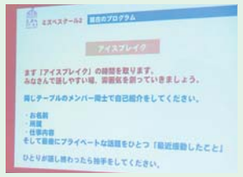
アイスブレイク15:10～　第1ラウンド15:20～　第2ラウンド15:50～　アイデア発表16:30～

最後は、8つのテーブルに分かれて
「ミズベリング・ワールドカフェ」。
まずは一人ひとりが、学んだことの中から
頭に残ったことを3つずつ書き出します。
それをテーブルのメンバーでシェアし、
自分の仕事にフィードバックすることを想像してみます。
将来ミズベ活用の仕事に携わっているとしたら、
自分の仕事はどう変わっているのか。
そう考えることが、ミズベリングの第一歩なのかもしれません。

なぜ？を問い続けられること、
実践を大切にすること
発信することの大切さを理解していること…
教わる側にも教える側にもなるということが
ミズベ人材にとって重要かなと思います。

㈱水辺総研 代表取締役「ミズベリング」ディレクター
水辺荘共同発起人
ファシリテーター　**岩本 唯史**氏

大切なのは、
得られた知見をフィードバックして
つぎの方向づけに活かしていくこと。



テーブル代表者からの意見発表

失敗してもいいからシュートを打っていく。

とにかくやってみることが大切ですよね、というのが共通認識でした。ハードルは高いし前例もない、でもとにかく“やってみる”ができる環境づくりが必要だなと。小さなことでもいいからどんどんシュートを打っていくこと。外しても失敗しても、そこから見えてくるものもあるのではないでしょうか。

“日常”の場としての川のポテンシャルを引き出したい。

やっぱりまだ心情的には「まち」と「かわ」に境があるので、そこを取っ払って一体的に考えていくところを最終的な目標にしたい。災害防止など河川の“非日常”だけでなく、水辺で楽しむという“日常”の部分で川のポテンシャルを引き出せたらいいなと思います。

管理と教育の両面で川の未来を考える。

河川を考える時、防災の話はやっぱり重要になります。ただ、危険の管理だけで終わるのではなく、それをちゃんと教育していかなければならないと思います。さらに言えば、逆にこういう風に使えば楽しめる、安全だということを伝えながら、川を「まち」の要素の一つとして残していくことが大切ですね。

最後に

全員で、山名氏による
イメージメソッドトレーニング！
長時間、皆様お疲れさまでした。

閉/会/

閉会挨拶

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川環境課長
中川 靖志氏

●発表資料は Web ページにて公開中！
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl00000006zw-att/zinzaiikusei.pdf